

市債（借金）の残高

市は、公共施設の建設など将来にわたって使用する施設などの整備を行うときに限り、国や金融機関から資金を借り入れることができ、これら市の借金を市債といえます。

市債残高の状況

区分	残高	
一般会計	221億9,333万円	
特別会計	学給食事 校特別会計	1,049万円
	簡易水道事 業別別会計	1億3,723万円
合計	223億4,105万円	

一時借入金の高

市は、一時的な資金不足により、市民への給付や納入業者への支払いに支障を生じさせないよう、金融機関から資金を借り入れています。

こうした市の一時的な借り入れを一時借入金といえます。

平成29年3月31日現在の借入金残高は、一般会計で13億円となっています。

※特別会計の一時借入金はありません。



市民一人当たり換算した場合

- ◇人口（平成29年3月31日現在）… 4万9,090人
- ◇一人当たりの収入額 …… 37万7,280円
- ◇一人当たりの負担する市税 …… 10万 127円
- ◇一人当たりの支出額 …… 36万9,746円
- ◇一人当たりの市債残高 …… 45万5,104円

市の財産

市は、市民サービスの提供に活用するために土地や建物を所有しているほか、特定の目的に使用するためや万が一のときの預金として、基金を保有するなどしています。

- 土地…686万㎡ 建物…28.2万㎡
- 現金（基金）…33億5,107万円
- 土地（基金）…11.1万㎡
- 出資金など…1億690万円
- 債権…4億8,630円



市の財政動向と今後の運営について

市の収入のうち、市税は市民の皆さんから納入していただく安定的な収入で、近年は51億円台で推移しています。

社会保障費）は必ず支払わなければならないもので、歳出の多くを占めている状況です。

財政運営を行う上では、収入に占める市税の割合が高いことが望ましいとされていますが、本市は他の自治体に比べると低く、国から交付される地方交付税の占める割合が高くなっています。

特定の事業に使用するため、また、財源の調整を図るため、市は、基金（預金）の積み立てをしています。

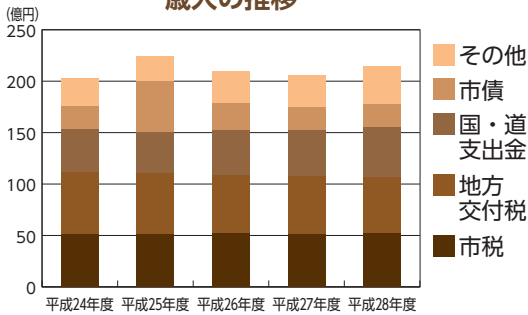
また、支出のうち、公債費や人件費のほか、扶助費（生活保護費や福祉関係の給付費などの

このうち、万が一のときの備えとして基金（財源調整用基金）の残高は、近年はほぼ横ばいで推移していますが、平成28年度は前年度比で約1億円減少しました。

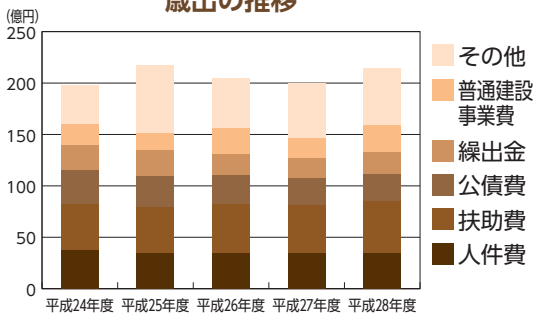
歳入の面では、国の動向などに左右されない市税などの安定的な収入や万が一のときに自由に使える基金（預金）を確保することに努め、歳出の面では、事務事業評価や予算編成などを通じて、事業の必要性・効率性について不断の見直しを図るなど、市は、今後も計画的に事業を進め、将来にわたって安定的で健全な財政運営を行ってまいります。

収入に占める市税の割合が低い本市においては、地方交付税が減額となる場合などに備え、支出を抑制するなど、基金（預金）を一定程度保有しておく必要があります。

歳入の推移



歳出の推移



基金（財源調整用）残高の推移

